

大学番号 公立9

注3

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 学部設置

注1

認可

富山県立大学 看護学部

注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

公立大学法人富山県立大学  
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 富山キャンパス事務部 管理課

職名・氏名 シュジ フジサワ ユキ  
主事 藤澤 有紀

電話番号 076-464-5410（内121）

（夜間） 076-464-5410（内121）

e-mail [y-fujisawa@pu-toyama.ac.jp](mailto:y-fujisawa@pu-toyama.ac.jp)

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	41
7. その他全般的事項	43

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

公立大学法人富山県立大学

## (2) 大学名

富山県立大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒930-0975 (939-0398)

富山県富山市西長江2丁目2番78号 (富山県射水市黒河5180番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を ( ) 書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シブタニ カツヒト) 渋谷 克人 (平成31年4月)		
学長	(シモヤマ イサオ) 下山 勲 (平成31年4月)		
学部長	(タケウチ トミコ) 竹内 登美子 (平成31年4月)		
学科長等	(オカモト エリ) 岡本 恵里 (平成31年4月)	(サエキ カズコ) 佐伯 和子 (令和3年4月1日)	(3) 変更年月日：令和3年4月1日 変更理由：任期満了のため

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ( ) 書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	4年	120人	年次一人	480人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A	入学定員	120人 ( - ) [ - ]	一人	120人 ( - ) [ - ]	一人	120人 ( - ) [ - ]	一人	1.00倍	一倍	
	志願者数	798 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	512 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	487 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]			
	受験者数	585 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	323 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	335 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]			
	合格者数	132 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	128 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	131 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]			
B	入学者数	123 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	120 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	121 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]			
	入学定員超過率 B/A	1.02		1.00		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	123 [ - ] ( - )	— [ - ] ( - )	120 [ - ] ( - )	— [ - ] ( - )	121 [ - ] ( - )	— [ - ] ( - )	
2年次	/		123 [ - ] ( - )	— [ - ] ( - )	121 [ - ] ( 1 )	— [ - ] ( - )	
3年次			/		/		121 [ - ] ( - )
4年次	/						/
計			123 [ - ] ( - )		243 [ - ] ( - )		

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	123 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	243 人	1 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	1 人	0 人	他の教育機関への転学(1人)
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	363 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{123} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{243} = \boxed{0.41} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{363} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	社会・環境	経済学Ⅰ	1前	2								1	
		経済学Ⅱ	1後・2前	2								1	
		社会学	1前	2								1	
		法学Ⅰ	1前・後	2								1	
		法学Ⅱ	2前	2								1	
		日本国憲法	1前・後	2								1	
		科学技術と社会	1前	2								1	
		富山と日本海	1前	2								1	
	環境論	1後	2								9		
	人間の理解	言語・文化	コミュニケーション論Ⅰ	1前	2								1
			コミュニケーション論Ⅱ	1前・2前	2								1
			コミュニケーション演習	1後	1								1
			文学Ⅰ	2前	2								1
			文学Ⅱ	1後	2								1
		精神・身体	芸術学Ⅰ	1前	2								1
			芸術学Ⅱ	1前	2								1
			国際関係論	1前	2								1
			海外留学科目(中国)	1・2・3・4休	2								1
			海外研修科目(米国)	1・2・3・4休	1								1
			心理学Ⅰ	1前	2								1
	心理学Ⅱ	2前	2								1		
	コミュニケーションの社会学	1前	2								1		
	倫理学	2前	2								1		
	哲学	1後	2								1		
	健康科学Ⅰ	1前	2								1		
	健康科学Ⅱ	1前・後	2								1		
	体力科学	1後	2								1		
	体力科学演習	1前	1								2		
	自然・情報	数学	1後	2								1	
		物理学	1前	2								1	
		化学	1前	2								1	
生物学		1後	2								1		
情報科学		1後	2								1		
情報科学演習	1前	1								1			
外国語	英語1	1前	1								3		
	英語2	1前	1								3		
	英語3	1後	1								3		
	英語4	1後	1								3		
	英語5	2前	1								1		
	英語6	2後	1								1		
	海外語学研修科目	1・2・3・4休	1								1		
	中国語Ⅰ	2前	1								1		
中国語Ⅱ	1・2・3・4休	1								1			
小計(43科目)	-	7	66	0	0	0	0	0	0	0	31		
専門基礎科目	側面的人・精神的	形態機能学Ⅰ(解剖学)	1前	2								1	
		形態機能学Ⅱ(生理学)	1前	2								1	
		形態機能学Ⅲ(生化学)	1後	1								1	
		生涯発達心理学	1後	2								1	
		生体と放射線学	2後	1								1	
	疾病と回復過程	病理学	1後	1								1	
		感染と防御	1後	1								1	
		薬理学	2前	2								1	
		成人臨床医学Ⅰ(外科系)	2前	1								1	
		成人臨床医学Ⅱ(内科系)	2前	1								1	
		老年臨床医学	2前	1								2	
		小児臨床医学	2前	1								2	
		母性臨床医学	2前	1								1	
	精神臨床医学	2前	1								1		
栄養学	2後	2								1			
度社健康保険支障制と	保険医療福祉行政論	2前	1								1		
	公衆衛生学	2後	1								1		
	地域ケアシステム論	2後	1			1	1	2					
学看を安全連携支援・する適	看護ケアと工学	2前	2			1	1				8		
	生活支援と情報	2後	1					2			4		
	先端医療論	2後	1			1					6		
小計(21科目)	-	27	0	0	3	2	3	0	-		32		

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	社会・環境	経済学Ⅰ	1前	2								1	
		経済学Ⅱ	1後・2前	2								1	
		社会学	1前	2								1	
		法学Ⅰ	1前・後	2								1	
		法学Ⅱ	2前	2								1	
		日本国憲法	1前・後	2								1	
		科学技術と社会	1前	2								1	
		富山と日本海	1前	2								3	
	環境論	1後	2								9		
	人間の理解	言語・文化	コミュニケーション論Ⅰ	1前	2								1
			コミュニケーション論Ⅱ	1前・2前	2								1
			コミュニケーション演習	1後	1								1
			文学Ⅰ	2前	2								1
			文学Ⅱ	1後	2								1
		精神・身体	比較文化学Ⅰ	1前	2								1
			比較文化学Ⅱ	1前	2								1
			国際関係論	1前	2								1
			海外留学科目(中国)	1・2・3・4休	2								1
			海外研修科目(米国)	1・2・3・4休	1								1
			心理学Ⅰ	1前	2								1
	心理学Ⅱ	2前	2								1		
	コミュニケーションの社会学	1前	2								1		
	倫理学	2前	2								1		
	哲学	1後	2								1		
	健康科学Ⅰ	1前	2								2		
	健康科学Ⅱ	1前・後	2								1		
	体力科学	1後	2								3		
	体力科学演習	1前	1								3		
	自然・情報	数学	1後	2								1	
		物理学	1前	2								1	
		化学	1前	2								1	
生物学		1後	2								1		
情報科学		1後	2								1		
情報科学演習	1前	1								1			
外国語	英語1	1前	1								2		
	英語2	1前	1								5		
	英語3	1後	1								2		
	英語4	1後	1								4		
	英語5	2前	1								1		
	英語6	2後	1								1		
	海外語学研修科目	1・2・3・4休	1								1		
	中国語Ⅰ	2前	1								1		
中国語Ⅱ	1・2・3・4休	1								1			
小計(43科目)	-	7	66	0	0	0	0	0	0	0	33		
専門基礎科目	側面的人・精神的	形態機能学Ⅰ(解剖学)	1前	2								4	
		形態機能学Ⅱ(生理学)	1前	2								3	
		形態機能学Ⅲ(生化学)	1後	1								4	
		生涯発達心理学	1後	2								1	
		生体と放射線学	2後	1								1	
	疾病と回復過程	病理学	1後	1								5	
		感染と防御	1後	1								2	
		薬理学	2前	2								3	
		成人臨床医学Ⅰ(外科系)	2前	1								7	
		成人臨床医学Ⅱ(内科系)	2前	1								9	
		老年臨床医学	2前	1								2	
		小児臨床医学	2前	1								7	
		母性臨床医学	2前	1								3	
	精神臨床医学	2前	1								4		
栄養学	2後	2								2			
度社健康保険支障制と	保険医療福祉行政論	2前	1								5		
	公衆衛生学	2後	1								4		
	地域ケアシステム論	2後	1					2	1	2			
学看を安全連携支援・する適	看護ケアと工学	2前	2					1	1		8		
	生活支援と情報	2後	1						1		5		
	先端医療論	2後	1					1			6		
小計(21科目)	-	27	0	0	4	2	3	0	-		77		

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア 形成	トピックゼミⅠ	1前	1			7	9	17	15	3		
	トピックゼミⅡ	1後	1			7	9	17	15	3		
	トピックゼミⅢ	2前	1			7	9	17	15	3		
	トピックゼミⅣ	2後	1			7	9	17	15	3		
	初期体験実習	1前	1			7	9	17	15	3		
	専門分野Ⅰ 基礎看護学	看護学概論	1前	2			1	1				
		基本看護技術	1前	1			1	3	4	2	2	
		生活援助看護技術	1後	2			1	3	4	2	2	
		フィジカルアセスメント	1後	1			1	3	4	2	2	
		看護過程論	2前	1			1	3	4	2	2	
診療援助看護技術		2前	2			1	3	4	2	2		
看護倫理学		3前	1			1	1					
基礎看護学実習Ⅰ		1後	1			1	3	4	2	2		
基礎看護学実習Ⅱ		2後	2			1	3	4	2	2		
成人看護学		成人看護学概論	2前	1			2					
	成人看護方法論Ⅰ(急性・回復)	2後	1			1	1	2	1			
	成人看護方法論Ⅱ(慢性)	2後	1			1	1					
	成人看護方法論Ⅲ(緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学演習Ⅰ(急性・回復)	3前	1			1	1	2	1			
	成人看護学演習Ⅱ(慢性・緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学実習Ⅰ(急性・回復)	3後	3			1	1	2	1			
	成人看護学実習Ⅱ(慢性・緩和)	3後	3			1	1	1	2			
	老年看護学	老年看護学概論	2前	1			1	1				
		老年看護方法論	2後	1			1	1	2	2		
老年看護学演習		3前	1			1	1	2	2			
老年看護学実習Ⅰ		3前	2			1	1	2	2			
老年看護学実習Ⅱ	3後	2			1	1	2	2				
小児看護学	小児看護学概論	2前	1					2				
	小児看護方法論	2後	1					2	1			
	小児看護学演習	3前	1					2	1			
	小児看護学実習Ⅰ	3前	1					2	1			
小児看護学実習Ⅱ	3後	1					2	1				
母性看護学	母性看護学概論	2前	1			1	1					
	母性看護方法論	2後	1			1	1	2				
	母性看護学演習	3前	1			1	1	2	4			
	母性看護学実習	3後	2			1	1	2	4			
精神看護学	精神看護学概論	2前	1			1						
	精神看護方法論	2後	1			1		1				
	精神看護学演習	3前	1			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2			1		1	2			
在宅看護学	在宅看護学概論	2前	1				1					
	在宅看護方法論	2後	1				1	1	1			
	在宅看護学演習	3前	1				1	1	1			
	在宅看護学実習	3後～4前	2				1	1	1			
地域看護学	地域看護学概論	2後	1			1	1				1	
	地域看護方法論	2後	1			1	1	2				
	地域看護学演習	3前	1			1	1	2		1		
	地域看護学実習	4前	1			1	1	2		1		
統合分野	看護教育学	4前	1			1						
	看護管理学	4前	1				3	1				
	多職種連携論	4前	1			1	1	2				
	国際看護活動論	4後	1				1					
	災害看護学	4後		1			1					
	救命救急看護学	4後		1			1					
	感染看護学	4後		1			1					
	認知症看護論	4後		1			1					
	糖尿病看護論	4後		1			1		1		2	
	看護学研究Ⅰ	3前	1			1	1	1				
	看護学研究Ⅱ	4通	2			7	9	17	3			
	看護ケアとユマニチュードⅠ	1前	1			7	9	17	15	3	2	
	看護ケアとユマニチュードⅡ	2前	1			7	9	17	15	3	2	
看護ケアとユマニチュードⅢ	3前	1			7	9	17	15	3	9		
看護ケアとユマニチュードⅣ	4前	1			7	9	17	15	3	9		
小計(63科目)	-		72	5	0	7	9	17	15	3	11	
合計(127科目)	-		106	71	0	7	9	17	15	3	74	

卒業要件及び履修方法

教養科目:25単位以上(必修7単位、選択18単位以上)  
ただし、以下の各区分における単位数の習得を必修とする。  
[区分]人間の理解:「社会・環境」から、選択2単位以上  
「言語・文化」から、必修1単位、選択2単位以上  
「精神・身体」から、必修3単位、選択2単位以上  
自然・情報:必修3単位、選択2単位以上  
外国語:選択4単位以上  
専門基礎科目:27単位(必修27単位)  
専門科目:74単位以上(必修72単位、選択2単位以上)  
合計126単位以上を取得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア 形成	トピックゼミⅠ	1前	1			8	9	19	17	3		
	トピックゼミⅡ	1後	1			8	9	19	17	3		
	トピックゼミⅢ	2前	1			8	9	19	17	3		
	トピックゼミⅣ	2後	1			8	9	19	17	3		
	初期体験実習	1前	1			8	9	19	17	3		
	専門分野Ⅰ 基礎看護学	看護学概論	1前	2			1	1				
		基本看護技術	1前	1			1	3	4	2	2	
		生活援助看護技術	1後	2			1	3	4	2	2	
		フィジカルアセスメント	1後	1			1	3	4	2	2	
		看護過程論	2前	1			1	3	4	2	2	
診療援助看護技術		2前	2			1	3	4	2	2		
看護倫理学		3前	1			1	1					
基礎看護学実習Ⅰ		1後	1			1	3	4	2	2		
基礎看護学実習Ⅱ		2後	2			1	3	4	2	2		
成人看護学		成人看護学概論	2前	1			2					
	成人看護方法論Ⅰ(急性・回復)	2後	1			1	1	2	1			
	成人看護方法論Ⅱ(慢性)	2後	1			1	1					
	成人看護方法論Ⅲ(緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学演習Ⅰ(急性・回復)	3前	1			1	1	2	1			
	成人看護学演習Ⅱ(慢性・緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学実習Ⅰ(急性・回復)	3後	3			1	1	2	1			
	成人看護学実習Ⅱ(慢性・緩和)	3後	3			1	1	1	2			
	老年看護学	老年看護学概論	2前	1			1	1				
		老年看護方法論	2後	1			1	1	3	2		
老年看護学演習		3前	1			1	1	3	2			
老年看護学実習Ⅰ		3前	2			1	1	3	2			
老年看護学実習Ⅱ	3後	2			1	1	3	2				
小児看護学	小児看護学概論	2前	1					1				
	小児看護方法論	2後	1					3				
	小児看護学演習	3前	1					3	1			
	小児看護学実習Ⅰ	3前	1					3	1			
小児看護学実習Ⅱ	3後	1					3	1				
母性看護学	母性看護学概論	2前	1			1	1					
	母性看護方法論	2後	1			1	1	2				
	母性看護学演習	3前	1			1	1	2	4			
	母性看護学実習	3後	2			1	1	2	4			
精神看護学	精神看護学概論	2前	1			1						
	精神看護方法論	2後	1			1		1				
	精神看護学演習	3前	1			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2			1		1	2			
在宅看護学	在宅看護学概論	2前	1				1					
	在宅看護方法論	2後	1				1	1	1			
	在宅看護学演習	3前	1				1	1	1			
	在宅看護学実習	3後～4前	2				1	1	2			
地域看護学	地域看護学概論	2後	1			2	1				1	
	地域看護方法論	2後	1			2	1	2				
	地域看護学演習	3前	1			2	1	2		1		
	地域看護学実習	4前	1			2	1	2		1		
統合分野	看護教育学	4前	1			1						
	看護管理学	4前	1				3	1				
	多職種連携論	4前	1			1	1	2				
	国際看護活動論	4後	1				1					
	災害看護学	4後		1			1					
	救命救急看護学	4後		1			1					
	感染看護学	4後		1			1					
	認知症看護論	4後		1			1					
	糖尿病看護論	4後		1			1		1		2	
	看護学研究Ⅰ	3前	1			2	1	1				
	看護学研究Ⅱ	4通	2			8	9	19	2			
	看護ケアとユマニチュードⅠ	1前	1			8	9	19	17	3	10	
	看護ケアとユマニチュードⅡ	2前	1			8	9	19	17	3	10	
看護ケアとユマニチュードⅢ	3前	1			8	9	18	13	3	10		
看護ケアとユマニチュードⅣ	4前	1			8	9	18	13	3	10		
小計(63科目)	-		72	5	0	8	9	19	17	3	12	
合計(127科目)	-		106	71	0	8	9	19	17	3	120	

卒業要件及び履修方法

教養科目:25単位以上(必修7単位、選択18単位以上)  
ただし、以下の各区分における単位数の習得を必修とする。  
[区分]人間の理解:「社会・環境」から、選択2単位以上  
「言語・文化」から、必修1単位、選択2単位以上  
「精神・身体」から、必修3単位、選択2単位以上  
自然・情報:必修3単位、選択2単位以上  
外国語:選択4単位以上  
専門基礎科目:27単位(必修27単位)  
専門科目:74単位以上(必修72単位、選択2単位以上)  
合計126単位以上を取得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	社会・環境	経済学Ⅰ	1前	2								1	
		経済学Ⅱ	1後・2前	2								1	
		社会学	1前	2								1	
		法学Ⅰ	1前・後	2								1	
		法学Ⅱ	2前	2								1	
		日本国憲法	1前・後	2								1	
		科学技術と社会	1前	2								1	
		富山と日本海	1前	2								3	
		環境論	1後	2								9	
	人間の理解	言語・文化	コミュニケーション論Ⅰ	1前	2								1
			コミュニケーション論Ⅱ	1前・2前	2								1
			コミュニケーション演習	1後	1								1
		文学Ⅰ	2前	2								1	
		文学Ⅱ	1後	2								1	
		比較文化Ⅰ	1前	2								1	
		比較文化Ⅱ	1前	2								1	
		国際関係論	1前	2								1	
		海外留学科目(中国)	1・2・3・4休	2								1	
	海外研修科目(米国)	1・2・3・4休	1								1		
	精神・身体	心理学Ⅰ	1前	2								1	
		心理学Ⅱ	2前	2								1	
		コミュニケーションの社会学	1前	2								1	
		倫理学	2前	2								1	
		哲学	1後	2								1	
		健康科学Ⅰ	1前	2								2	
		健康科学Ⅱ	1前・後	2								1	
		体力科学	1後	2								3	
		体力科学演習	1前	1								3	
	自然・情報	数学	1後	2								1	
		物理学	1前	2								1	
		化学	1前	2								1	
		生物学	1後	2								1	
		情報科学	1後	2								1	
情報科学演習		1前	1								1		
外国語	英語1	1前	1								3		
	英語2	1前	1								4		
	英語3	1後	1								3		
	英語4	1後	1								4		
	英語5	2前	1								1		
	英語6	2後	1								1		
	海外語学研修科目	1・2・3・4休	1								1		
	中国語Ⅰ	2前	1								1		
	中国語Ⅱ	1・2・3・4休	1								1		
小計(43科目)	-	7	66	0	0	0	0	0	0	0	32		
専門基礎科目	側面的人・間精神的	形態機能学Ⅰ(解剖学)	1前	2								4	
		形態機能学Ⅱ(生理学)	1前	2								3	
		形態機能学Ⅲ(生化学)	1後	1								4	
		生涯発達心理学	1後	2								1	
		生体と放射線学	2後	1								1	
	疾病と回復過程	病理学	1後	1								6	
		感染と防御	1後	1								1	
		薬理学	2前	2								1	
		成人臨床医学Ⅰ(外科系)	2前	1								1	
		成人臨床医学Ⅱ(内科系)	2前	1								1	
		老年臨床医学	2前	1								2	
		小児臨床医学	2前	1								1	
		母性臨床医学	2前	1								1	
		精神臨床医学	2前	1								1	
	栄養学	2後	2								1		
度社健康保険支障と	保険医療福祉行政論	2前	1								1		
	公衆衛生学	2後	1								1		
	地域ケアシステム論	2後	1			1	1	2			4		
	学看を安全連携・支援する	看護ケアと工学	2前	2			1	1				8	
		生活支援と情報	2後	1					2			4	
先端医療論		2後	1			1					6		
小計(21科目)	-	27	0	0	3	2	3	0	-	-	43		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	社会・環境	経済学Ⅰ	1前	2								1	
		経済学Ⅱ	1後・2前	2								1	
		社会学	1前	2								1	
		法学Ⅰ	1前・後	2								1	
		法学Ⅱ	2前	2								1	
		日本国憲法	1前・後	2								1	
		科学技術と社会	1前	2								1	
		富山と日本海	1前	2								3	
		環境論	1後	2								9	
	人間の理解	言語・文化	コミュニケーション論Ⅰ	1前	2								1
			コミュニケーション論Ⅱ	1前・2前	2								1
			コミュニケーション演習	1後	1								1
		文学Ⅰ	2前	2								1	
		文学Ⅱ	1後	2								1	
		比較文化Ⅰ	1前	2								1	
		比較文化Ⅱ	1前	2								1	
		国際関係論	1前	2								1	
		海外留学科目(中国)	1・2・3・4休	2								1	
	海外研修科目(米国)	1・2・3・4休	1								1		
	精神・身体	心理学Ⅰ	1前	2								1	
		心理学Ⅱ	2前	2								1	
		コミュニケーションの社会学	1前	2								1	
		倫理学	2前	2								1	
		哲学	1後	2								1	
		健康科学Ⅰ	1前	2								2	
		健康科学Ⅱ	1前・後	2								1	
		体力科学	1後	2								3	
		体力科学演習	1前	1								2	
	自然・情報	数学	1後	2								1	
		物理学	1前	2								1	
		化学	1前	2								1	
		生物学	1後	2								1	
		情報科学	1後	2								1	
情報科学演習		1前	1								1		
外国語	英語1	1前	1								3		
	英語2	1前	1								5		
	英語3	1後	1								3		
	英語4	1後	1								5		
	英語5	2前	1								1		
	英語6	2後	1								1		
	海外語学研修科目	1・2・3・4休	1								1		
	中国語Ⅰ	2前	1								1		
	中国語Ⅱ	1・2・3・4休	1								1		
小計(43科目)	-	7	66	0	0	0	0	0	0	0	34		
専門基礎科目	側面的人・間精神的	形態機能学Ⅰ(解剖学)	1前	2								4	
		形態機能学Ⅱ(生理学)	1前	2								3	
		形態機能学Ⅲ(生化学)	1後	1								4	
		生涯発達心理学	1後	2								1	
		生体と放射線学	2後	1								1	
	疾病と回復過程	病理学	1後	1								6	
		感染と防御	1後	1								2	
		薬理学	2前	2								3	
		成人臨床医学Ⅰ(外科系)	2前	1								7	
		成人臨床医学Ⅱ(内科系)	2前	1								9	
		老年臨床医学	2前	1								2	
		小児臨床医学	2前	1								7	
		母性臨床医学	2前	1								3	
		精神臨床医学	2前	1								4	
	栄養学	2後	2								2		
度社健康保険支障と	保険医療福祉行政論	2前	1								5		
	公衆衛生学	2後	1								4		
	地域ケアシステム論	2後	1			1	1	2			4		
	学看を安全連携・支援する	看護ケアと工学	2前	2			1	1				8	
		生活支援と情報	2後	1					2			4	
先端医療論		2後	1			1					6		
小計(21科目)	-	27	0	0	3	2	3	0	-	-	76		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア形成	トピックゼミⅠ	1前	1			7	6	18	14	3		
	トピックゼミⅡ	1後	1			7	6	17	14	3		
	トピックゼミⅢ	2前	1			7	9	17	15	3		
	トピックゼミⅣ	2後	1			7	9	17	15	3		
	初期体験実習	1前	1			7	6	18	14	3		
	専門分野Ⅰ 基礎看護学	看護学概論	1前	2			1	1				
		基本看護技術	1前	1			1	3	4	2	2	
		生活援助看護技術	1後	2			1	3	4	2	2	
		フィジカルアセスメント	1後	1			1	3	4	2	2	
		看護過程論	2前	1			1	3	4	2	2	
診療援助看護技術		2前	2			1	3	4	2	2		
看護倫理学		3前	1			1	1					
基礎看護学実習Ⅰ		1後	1			1	3	4	2	2		
基礎看護学実習Ⅱ		2後	2			1	3	4	2	2		
成人看護学		成人看護学概論	2前	1			2					
	成人看護方法論Ⅰ(急性・回復)	2後	1			1	1	2	1			
	成人看護方法論Ⅱ(慢性)	2後	1			1	1					
	成人看護方法論Ⅲ(緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学演習Ⅰ(急性・回復)	3前	1			1	1	2	1			
	成人看護学演習Ⅱ(慢性・緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学実習Ⅰ(急性・回復)	3後	3			1	1	2	1			
	成人看護学実習Ⅱ(慢性・緩和)	3後	3			1	1	1	2			
	老年看護学	老年看護学概論	2前	1			1	1				
		老年看護方法論	2後	1			1	1	2	2		
老年看護学演習		3前	1			1	1	2	2			
老年看護学実習Ⅰ		3前	2			1	1	2	2			
老年看護学実習Ⅱ		3後	2			1	1	2	2			
小児看護学	小児看護学概論	2前	1					1				
	小児看護方法論	2後	1					3	3	1		
	小児看護学演習	3前	1					3	3	1		
	小児看護学実習Ⅰ	3前	1					3	3	1		
	小児看護学実習Ⅱ	3後	1					3	3	1		
母性看護学	母性看護学概論	2前	1			1	1					
	母性看護方法論	2後	1			1	1	2				
	母性看護学演習	3前	1			1	1	2	4			
	母性看護学実習	3後	2			1	1	2	4			
精神看護学	精神看護学概論	2前	1			1						
	精神看護方法論	2後	1			1		1				
	精神看護学演習	3前	1			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2			1		1	2			
在宅看護学	在宅看護学概論	2前	1				1					
	在宅看護方法論	2後	1				1	1	1			
	在宅看護学演習	3前	1				1	1	1			
	在宅看護学実習	3後～4前	2				1	1	1			
地域看護学	地域看護学概論	2後	1			1	1				1	
	地域看護方法論	2後	1			1	1	2				
	地域看護学演習	3前	1			1	1	2			1	
	地域看護学実習	4前	1			1	1	2			1	
統合分野	看護教育学	4前	1			1						
	看護管理学	4前	1				3	1				
	多職種連携論	4前	1			1	1	2				
	国際看護活動論	4後	1				1					
	災害看護学	4後		1			1					
	救命救急看護学	4後		1			1					
	感染看護学	4後		1			1					
	認知症看護論	4後		1			1				2	
	糖尿病看護論	4後		1			1		1			
	看護学研究Ⅰ	3前	1			1	1	1				
	看護学研究Ⅱ	4通	2			7	9	17	3			
	看護ケアとユマニチュードⅠ	1前	1			7	6	18	14	3	9	
	看護ケアとユマニチュードⅡ	2前	1			7	9	17	15	3	9	
看護ケアとユマニチュードⅢ	3前	1			7	9	17	15	3	9		
看護ケアとユマニチュードⅣ	4前	1			7	9	17	15	3	9		
小計(63科目)	-		72	5	0	7	9	18	15	3	11	
合計(127科目)	-		106	71	0	7	9	18	15	3	85	

卒業要件及び履修方法

教養科目:25単位以上(必修7単位、選択18単位以上)  
 ただし、以下の各区分における単位数の習得を必修とする。  
 [区分]人間の理解:「社会・環境」から、選択2単位以上  
 「言語・文化」から、必修1単位、選択2単位以上  
 「精神・身体」から、必修3単位、選択2単位以上  
 自然・情報:必修3単位、選択2単位以上  
 外国語:選択4単位以上  
 専門基礎科目:27単位(必修27単位)  
 専門科目:74単位以上(必修72単位、選択2単位以上)  
 合計126単位以上を取得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア形成	トピックゼミⅠ	1前	1			7	9	17	15	3		
	トピックゼミⅡ	1後	1			7	9	18	15	3		
	トピックゼミⅢ	2前	1			7	9	17	15	3		
	トピックゼミⅣ	2後	1			7	9	18	15	3		
	初期体験実習	1前	1			7	9	17	15	3		
	専門分野Ⅰ 基礎看護学	看護学概論	1前	2			1	1				
		基本看護技術	1前	1			1	3	4	2	2	
		生活援助看護技術	1後	2			1	3	4	2	2	
		フィジカルアセスメント	1後	1			1	3	4	2	2	
		看護過程論	2前	1			1	3	4	2	2	
診療援助看護技術		2前	2			1	3	4	2	2		
看護倫理学		3前	1			1	1					
基礎看護学実習Ⅰ		1後	1			1	3	4	2	2		
基礎看護学実習Ⅱ		2後	2			1	3	4	2	2		
成人看護学		成人看護学概論	2前	1			2					
	成人看護方法論Ⅰ(急性・回復)	2後	1			1	1	2	1			
	成人看護方法論Ⅱ(慢性)	2後	1			1	1					
	成人看護方法論Ⅲ(緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学演習Ⅰ(急性・回復)	3前	1			1	1	2	1			
	成人看護学演習Ⅱ(慢性・緩和)	3前	1			1	1	1	2			
	成人看護学実習Ⅰ(急性・回復)	3後	3			1	1	2	1			
	成人看護学実習Ⅱ(慢性・緩和)	3後	3			1	1	1	2			
	老年看護学	老年看護学概論	2前	1			1	1				
		老年看護方法論	2後	1			1	1	2	2		
老年看護学演習		3前	1			1	1	2	2			
老年看護学実習Ⅰ		3前	2			1	1	2	2			
老年看護学実習Ⅱ		3後	2			1	1	2	2			
小児看護学	小児看護学概論	2前	1					1				
	小児看護方法論	2後	1					3	3	1		
	小児看護学演習	3前	1					3	3	1		
	小児看護学実習Ⅰ	3前	1					3	3	1		
	小児看護学実習Ⅱ	3後	1					3	3	1		
母性看護学	母性看護学概論	2前	1			1	1					
	母性看護方法論	2後	1			1	1	2				
	母性看護学演習	3前	1			1	1	2	4			
	母性看護学実習	3後	2			1	1	2	4			
精神看護学	精神看護学概論	2前	1			1						
	精神看護方法論	2後	1			1		1				
	精神看護学演習	3前	1			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2			1		1	2			
在宅看護学	在宅看護学概論	2前	1				1					
	在宅看護方法論	2後	1				1	1	1			
	在宅看護学演習	3前	1				1	1	1			
	在宅看護学実習	3後～4前	2				1	1	1			
地域看護学	地域看護学概論	2後	1			1	1				1	
	地域看護方法論	2後	1			1	1	2				
	地域看護学演習	3前	1			1	1	2			1	
	地域看護学実習	4前	1			1	1	2			1	
統合分野	看護教育学	4前	1			1						
	看護管理学	4前	1				3	1				
	多職種連携論	4前	1			1	1	2				
	国際看護活動論	4後	1				1					
	災害看護学	4後		1			1					
	救命救急看護学	4後		1			1					
	感染看護学	4後		1			1					
	認知症看護論	4後		1			1				2	
	糖尿病看護論	4後		1			1		1			
	看護学研究Ⅰ	3前	1			1	1	1				
	看護学研究Ⅱ	4通	2			7	9	17	3			
	看護ケアとユマニチュードⅠ	1前	1			7	6	18	14	3	9	
	看護ケアとユマニチュードⅡ	2前	1			7	9	17	15	3	9	
看護ケアとユマニチュードⅢ	3前	1			7	9	18	15	3	9		
看護ケアとユマニチュードⅣ	4前	1			7	9	18	15	3	9		
小計(63科目)	-		72	5	0	7	9	18	15	3	11	
合計(127科目)	-		106	71	0	7	9	18	15	3	120	

卒業要件及び履修方法

教養科目:25単位以上(必修7単位、選択18単位以上)  
 ただし、以下の各区分における単位数の習得を必修とする。  
 [区分]人間の理解:「社会・環境」から、選択2単位以上  
 「言語・文化」から、必修1単位、選択2単位以上  
 「精神・身体」から、必修3単位、選択2単位以上  
 自然・情報:必修3単位、選択2単位以上  
 外国語:選択4単位以上  
 専門基礎科目:27単位(必修27単位)  
 専門科目:74単位以上(必修72単位、選択2単位以上)  
 合計126単位以上を取得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務実習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) - ② 授業科目表に関する変更内容

**【令和元年度】**

・「芸術学Ⅰ」「芸術学Ⅱ」を担当する教員の退職に伴い科目を廃止することとなったため、当該科目に相当する科目「比較文化学Ⅰ」「比較文化学Ⅱ」を新設し、教育内容の維持・充実を図った。

**【令和2年度】**

・「体力科学演習」「英語5」「英語6」「中国語Ⅰ」について、担当の兼任教員（非常勤講師）を変更。  
 ・「英語2」「英語4」について、兼任教員を追加。  
 ・「感染と防御」「薬理学」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生学」について、兼任教員を追加。  
 ・「成人臨床医学Ⅰ（外科系）」「成人臨床医学Ⅱ（内科系）」「小児臨床医学」「母性臨床医学」「精神臨床医学」「栄養学」について、兼任教員を変更及び追加。  
 ・「先端医療論」について、兼任教員を変更。

**【令和3年度】**

・「数学」について、兼任教員を変更。  
 ・「先端医療論」「環境論」について、兼任教員の退職により、兼任教員（非常勤講師）に変更。  
 ・「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」について、兼任教員を変更。  
 ・「体力科学演習」「生活支援と情報」について、兼任教員を追加。  
 ・「病理学」について、兼任教員を変更。  
 ・「精神臨床医学」「保健医療福祉行政論」について、兼任教員を変更及び追加。  
 ・「看護ケアとユマニチュードⅠ～Ⅳ」について、兼任教員を追加。  
 ・専任教員の増加に伴う専任教員等の配置の変更（トピックゼミⅠ～Ⅳ、初期体験実習、老年看護方法論、老年看護学演習、老年看護学実習Ⅰ～Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学概論、地域看護方法論、地域看護学演習、地域看護学実習、看護学研究Ⅰ～Ⅱ、看護ケアとユマニチュードⅠ～Ⅳ）

- (注) ・ 2(1) - ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
84 科目	43 科目	0 科目	127 科目	84 科目 [ 0 ]	43 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	127 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{127} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	・平成31～令和3年度 は、富山キャンパスを 富山県立総合衛生学院 (収容定員/H31:240 人、R2:140人、R3:40 人、富山県の面積基準 なし)と共用 ・富山キャンパスの土 地(11,858㎡)及び建 物(14,495㎡)につい ては、県からの無償貸 与(3年毎の自動更 新)		
	校舎敷地	120,135㎡	— ㎡	— ㎡	120,135㎡			
	運動場用地	44,450㎡	— ㎡	— ㎡	44,450㎡			
	小 計	164,585㎡	— ㎡	— ㎡	164,585㎡			
	そ の 他	45,285㎡	— ㎡	— ㎡	45,285㎡			
	合 計	209,870㎡	— ㎡	— ㎡	209,870㎡			
(2) 校 舎	専 用	65,757㎡ <del>83,266㎡</del> 66,799㎡	— ㎡	— ㎡	65,757㎡ <del>83,266㎡</del> 66,799㎡	・校舎の新設に伴う増 (2) ・環境工学科棟と旧環 境工学実験棟の解体を 行ったことに伴う減 (3)		
	(66,799㎡)	( — ㎡)	( — ㎡)	(66,799㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	1室 — 室 (補助職員 — 人) (補助職員 — 人)		
	11室	12室	7室					
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		72 室		
	看護学部 看護学科							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	工学部と共用(図書 175,252冊、学術雑誌 3,673種、視聴覚資料 1,574点) ・図書、学術雑誌、視 聴覚資料は 追加購入 のため増加(2) ・図書、視聴覚資料は 追加購入のため増加 (3) ・学術雑誌は休刊等に より減少(3)
	看護学部	16,412〔133〕 <del>(17,144〔69〕)</del> <del>(15,691〔55〕)</del> <del>(13,511〔49〕)</del>	133〔14〕 <del>(112〔10〕)</del> <del>(113〔10〕)</del> <del>(0〔0〕)</del>	5〔0〕 <del>(10〔10〕)</del> <del>(5〔5〕)</del> <del>(0〔0〕)</del>	678 <del>209</del> <del>(106)</del> <del>(4)</del>	12,507 <del>(10,202)</del>	47 <del>(20)</del>	
	計	16,412〔133〕 <del>(17,144〔69〕)</del> <del>(15,691〔55〕)</del> <del>(13,511〔49〕)</del>	133〔14〕 <del>(112〔10〕)</del> <del>(113〔10〕)</del> <del>(0〔0〕)</del>	5〔0〕 <del>(10〔10〕)</del> <del>(5〔5〕)</del> <del>(0〔0〕)</del>	678 <del>209</del> <del>(106)</del> <del>(4)</del>	12,507 <del>(10,202)</del>	47 <del>(20)</del>	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 座席数の計上方法見直 し等による増(2)		
	3,457㎡	427席 327席		18.9万冊 21.7万冊				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	1,772㎡	フ ィ ッ ト ネ ス ル ー ム 392 ㎡ ( 兼 講 堂 ) テ ニ ス コ ー ト 3 面						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度
		教員1人当たり研究費等	388千円	388千円	図書購入費	24,536千円	23,991千円	23,991千円
	共 同 研 究 費 等	19,788千円	19,788千円	設備購入費	502,965千円	27,953千円	50,224千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
		県内724千円 県外818千円	536千円	536千円	536千円	— 千円	— 千円	
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		受託研究費等のほか富山県の一般財源を充てる。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	富山県立大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
工学部	4	340	-	1,360	-	1.05	1.05	-	平成2	富山県射水市黒河5180番地	
機械システム工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.04	1.11	-	平成2	同上	
知能ロボット工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.06	1.01	-	平成18	同上	
電子・情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成18	同上	令和2年度学生募集停止
電気電子工学科	4	45	-	180	学士(工学)	1.03	1.04	-	令和2	同上	令和2年度新設
情報システム工学科	4	45	-	180	学士(工学)	1.08	1.13	-	令和2	同上	令和2年度新設
環境・社会基盤工学科	4	55	-	220	学士(工学)	1.06	1.00	-	平成21	同上	
生物工学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.07	1.00	-	平成18	同上	
医薬品工学科	4	35	-	140	学士(工学)	1.06	1.08	-	平成29	同上	
看護学部	4	120	-	480	-	1.00	1.00	-	平成31	富山県富山市西長江2丁目2番78号	
看護学科	4	120	-	480	学士(看護学)	1.00	1.00	-	平成31	同上	
大学全体	-	460	-	1,840	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	富山県立大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
工学研究科 博士前期課程	2	108	-	216	修士(工学)	1.05	1.05	-	平成6	富山県射水市黒河5180番地	
機械システム工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.21	1.55	-	平成6	同上	令和3年度定員数変更
知能ロボット工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.06	0.95	-	平成18	同上	令和3年度名称変更、定員数変更
電子・情報工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	1.31	1.11	-	平成18	同上	令和3年度名称変更、定員数変更
環境・社会基盤工学専攻	2	15	-	30	修士(工学)	0.78	0.73	-	平成25	同上	令和3年度名称変更、定員数変更
生物・医薬品工学専攻	2	26	-	52	修士(工学)	0.84	0.88	-	平成8	同上	令和3年度名称変更、定員数変更
工学研究科 博士後期課程	3	10	-	30	博士(工学)	0.49	0.60	-	平成8	富山県射水市黒河5180番地	
総合工学専攻 (機械システム工学、知能ロボット工学、電子・情報工学、環境・社会基盤工学、生物・医薬品工学)	3	10	-	30	博士(工学)	-	0.60	-	令和3	同上	令和3年度「総合工学専攻」の1専攻5分野に再編し、定員数を変更
大学院全体	-	118	-	246	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。  
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授 (学部長)	竹内 登美子 <平成31年4月> 博士(教育学)									
		トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 老年看護学概論※ 老年看護学方法論※ 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 老年看護学概論※ 老年看護学方法論※ 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 老年看護学概論※ 老年看護学方法論※ 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 老年看護学概論※ 老年看護学方法論※ 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※
専	教授	岡本 恵里 <平成31年4月> 修士(カウンセリング)	専	教授	岡本 恵里 <平成31年4月> 博士(教育学)	専	教授	岡本 恵里 <平成31年4月> 博士(教育学)	専	教授	岡本 恵里 <平成31年4月> 博士(教育学)
		看護ケアと工学※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 看護学概論※ 基本看護技術※ 生活援助看護技術※ フィジカルアセスメント※ 看護過程論※ 診療援助看護技術※ 看護倫理学 看護教育学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアと工学※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 看護学概論※ 基本看護技術※ 生活援助看護技術※ フィジカルアセスメント※ 看護過程論※ 診療援助看護技術※ 看護倫理学 看護教育学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアと工学※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 看護学概論※ 基本看護技術※ 生活援助看護技術※ フィジカルアセスメント※ 看護過程論※ 診療援助看護技術※ 看護倫理学 看護教育学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアと工学※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 看護学概論※ 基本看護技術※ 生活援助看護技術※ フィジカルアセスメント※ 看護過程論※ 診療援助看護技術※ 看護倫理学 看護教育学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※
専	教授	桑子 嘉美 <平成31年4月> 博士(医学)									
		先端医療論※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 成人看護学概論※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性・回復)※ 成人看護学演習Ⅰ(急性・回復) 成人看護学実習Ⅰ(急性・回復) 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			先端医療論※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 成人看護学概論※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性・回復)※ 成人看護学演習Ⅰ(急性・回復) 成人看護学実習Ⅰ(急性・回復) 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			先端医療論※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 成人看護学概論※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性・回復)※ 成人看護学演習Ⅰ(急性・回復) 成人看護学実習Ⅰ(急性・回復) 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			先端医療論※ トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 成人看護学概論※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性・回復)※ 成人看護学演習Ⅰ(急性・回復) 成人看護学実習Ⅰ(急性・回復) 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※



























専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	北林 正子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 在宅看護方法論※ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※
		川越 誠 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会
		川上 智規 <平成31年4月> 博士(工学)
		環境論※
		楠井 隆史 <平成31年4月> 工学博士
		環境論※
渡辺 幸一 <平成31年4月> 博士(理学)		
環境論※		
原口 志津子 <平成31年4月> 博士(文学)		
芸術学Ⅰ 芸術学Ⅱ		
川上 崇 <平成31年4月> 工学博士		
海外留学科目(中国) 海外研修科目(米国) 海外語学研修科目		
石森 勇次 <平成31年4月> 工学博士		
数学		
福原 忠 <平成31年4月> 理学博士		
物理学		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	北林 正子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 在宅看護方法論※ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※
		川越 誠 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会
		川上 智規 <平成31年4月> 博士(工学)
		環境論※
		楠井 隆史 <平成31年4月> 工学博士
		環境論※ 富山と日本海※
渡辺 幸一 <平成31年4月> 博士(理学)		
環境論※		
金城 朱美 <平成31年4月> 博士(文学)		
比較文化学Ⅰ 比較文化学Ⅱ		
石森 勇次 <平成31年4月> 工学博士		
数学		
三本 啓輔 <平成31年4月> 理学博士		
物理学		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	北林 正子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 在宅看護方法論※ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※
		川越 誠 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会
		川上 智規 <平成31年4月> 博士(工学)
		環境論※
		楠井 隆史 <平成31年4月> 工学博士
		環境論※ 富山と日本海※
渡辺 幸一 <平成31年4月> 博士(理学)		
環境論※		
金城 朱美 <平成31年4月> 博士(文学)		
比較文化学Ⅰ 比較文化学Ⅱ		
石森 勇次 <平成31年4月> 工学博士		
数学		
三本 啓輔 <平成31年4月> 理学博士		
物理学		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	北林 正子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 在宅看護方法論※ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学研究Ⅱ 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※
		枝川 奈都美 <令和3年4月> 修士(看護学)
		トピックゼミⅠ トピックゼミⅡ トピックゼミⅢ トピックゼミⅣ 初期体験実習 在宅看護学実習 看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※
		川越 誠 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会
		川上 智規 <平成31年4月> 博士(工学)
環境論※		
楠井 隆史 <平成31年4月> 工学博士		
環境論※ 富山と日本海※		
渡辺 幸一 <平成31年4月> 博士(理学)		
環境論※		
金城 朱美 <平成31年4月> 博士(文学)		
比較文化学Ⅰ 比較文化学Ⅱ		
石森 勇次 <平成31年4月> 工学博士		
数学		
三本 啓輔 <平成31年4月> 理学博士		
物理学		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川 佳英 <平成31年4月> 文学修士	中国語Ⅱ
兼任	教授	大島 徹 <令和2年4月> 工学博士	看護ケアと工学※
兼任	教授	鳥山 朋二 <令和2年4月> 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	教授	唐山 英明 <令和2年4月> 博士(理学)	生活支援と情報※
兼任	教授	榊 利之 <令和2年4月> 理学博士	先端医療論※
兼任	教授	竹井 敏 <令和2年4月> 博士(工学)	先端医療論※
兼任	准教授	平野 嘉孝 <平成31年4月> 修士(経済学)	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ 環境論※
兼任	准教授	大石 玄 <平成31年4月> 修士(法学)	法学Ⅰ 法学Ⅱ 日本国憲法
兼任	准教授	呉 修一 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	立田 真文 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	竹澤 みどり <平成31年4月> 博士(心理学)	コミュニケーション論Ⅰ コミュニケーション論Ⅱ コミュニケーション演習 生涯発達心理学
兼任	准教授	川上 陽介 <平成31年4月> 博士(文学)	文学Ⅱ
兼任	准教授	岡本 啓 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)	健康科学Ⅱ 体力科学 体力科学演習
兼任	准教授	川端 繁樹 <平成31年4月> 理学博士	化学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	戸田 晃一 <平成31年4月> 理学博士	海外留学科目(中国) 海外研修科目(米国) 海外語学研修科目 中国語Ⅱ
兼任	教授	大島 徹 <令和2年4月> 工学博士	看護ケアと工学※
兼任	教授	鳥山 朋二 <令和2年4月> 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	教授	唐山 英明 <令和2年4月> 博士(理学)	生活支援と情報※
兼任	教授	榊 利之 <令和2年4月> 理学博士	先端医療論※
兼任	教授	竹井 敏 <令和2年4月> 博士(工学)	先端医療論※
兼任	准教授	平野 嘉孝 <平成31年4月> 修士(経済学)	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ 環境論※ 富山と日本海※
兼任	准教授	大石 玄 <平成31年4月> 修士(法学)	法学Ⅰ 法学Ⅱ 日本国憲法
兼任	准教授	呉 修一 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	立田 真文 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	竹澤 みどり <平成31年4月> 博士(心理学)	コミュニケーション論Ⅰ コミュニケーション論Ⅱ コミュニケーション演習 生涯発達心理学
兼任	准教授	川上 陽介 <平成31年4月> 博士(文学)	文学Ⅱ
兼任	准教授	岡本 啓 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)	体力科学 体力科学演習 コミュニケーション演習
兼任	准教授	川端 繁樹 <平成31年4月> 理学博士	化学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	戸田 晃一 <平成31年4月> 理学博士	海外留学科目(中国) 海外研修科目(米国) 海外語学研修科目 中国語Ⅱ
兼任	教授	大島 徹 <令和2年4月> 工学博士	看護ケアと工学※
兼任	教授	鳥山 朋二 <令和2年4月> 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	教授	唐山 英明 <令和2年4月> 博士(理学)	生活支援と情報※
兼任	教授	榊 利之 <令和2年4月> 理学博士	先端医療論※
兼任	教授	竹井 敏 <令和2年4月> 博士(工学)	先端医療論※
兼任	准教授	平野 嘉孝 <平成31年4月> 修士(経済学)	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ 環境論※ 富山と日本海※
兼任	准教授	大石 玄 <平成31年4月> 修士(法学)	法学Ⅰ 法学Ⅱ 日本国憲法
兼任	准教授	呉 修一 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	立田 真文 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	竹澤 みどり <平成31年4月> 博士(心理学)	コミュニケーション論Ⅰ コミュニケーション論Ⅱ コミュニケーション演習 生涯発達心理学
兼任	准教授	川上 陽介 <平成31年4月> 博士(文学)	文学Ⅱ
兼任	准教授	岡本 啓 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)	体力科学 体力科学演習 コミュニケーション演習
兼任	准教授	川端 繁樹 <平成31年4月> 理学博士	化学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	戸田 晃一 <平成31年4月> 理学博士	海外留学科目(中国) 海外研修科目(米国) 海外語学研修科目 中国語Ⅱ 数学
兼任	教授	大島 徹 <令和2年4月> 工学博士	看護ケアと工学※
兼任	教授	鳥山 朋二 <令和2年4月> 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	教授	唐山 英明 <令和2年4月> 博士(理学)	生活支援と情報※
兼任	講師	榊 利之 <令和3年4月> 理学博士	先端医療論※
兼任	教授	竹井 敏 <令和2年4月> 博士(工学)	先端医療論※
兼任	教授	平野 嘉孝 <平成31年4月> 修士(経済学)	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ 環境論※ 富山と日本海※
兼任	准教授	大石 玄 <平成31年4月> 修士(法学)	法学Ⅰ 法学Ⅱ 日本国憲法
兼任	准教授	呉 修一 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	立田 真文 <平成31年4月> 博士(工学)	環境論※
兼任	准教授	竹澤 みどり <平成31年4月> 博士(心理学)	コミュニケーション論Ⅰ コミュニケーション論Ⅱ コミュニケーション演習 生涯発達心理学
兼任	教授	川上 陽介 <平成31年4月> 博士(文学)	文学Ⅱ
兼任	准教授	岡本 啓 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)	体力科学 体力科学演習
兼任	教授	川端 繁樹 <平成31年4月> 理学博士	化学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	鈴木 浩司 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		生物学
兼担	准教授	小林 一也 ＜平成31年4月＞ 工学博士
		情報科学 情報科学演習
兼担	准教授	中島 崇 ＜平成31年4月＞ Ph.D. in Linguistics (米国)
		英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼担	准教授	山崎 大介 ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼担	准教授	小柳 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		看護ケアと工学※
兼担	准教授	小山 靖人 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		看護ケアと工学※
兼担	准教授	岩本 健嗣 ＜令和2年4月＞ 博士(政策・メディア)
		生活支援と情報※
兼担	准教授	伊東 聡 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		先端医療論※
兼担	講師	濱 貴子 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		社会学 環境論※ コミュニケーションの社会学
兼担	講師	中村 秀規 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		環境論※
兼担	講師	井戸 啓介 ＜平成31年4月＞ 博士(人間・環境学)
		心理学 I 心理学 II
兼担	講師	上村 一貴 ＜平成31年4月＞ 博士(リハビリテーション療法学)
		健康科学 I 体力科学演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	鈴木 浩司 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		生物学
兼担	准教授	小林 一也 ＜平成31年4月＞ 工学博士
		情報科学 情報科学演習
兼担	講師	林 智 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼担	准教授	山崎 大介 ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼担	准教授	小柳 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		看護ケアと工学※
兼担	准教授	小山 靖人 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		看護ケアと工学※
兼担	准教授	岩本 健嗣 ＜令和2年4月＞ 博士(政策・メディア)
		生活支援と情報※
兼担	准教授	伊東 聡 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		先端医療論※
兼担	講師	濱 貴子 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		社会学 環境論※ コミュニケーションの社会学 富山と日本海※
兼担	講師	中村 秀規 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		環境論※
兼担	講師	井戸 啓介 ＜平成31年4月＞ 博士(人間・環境学)
		心理学 I 心理学 II
兼担	講師	上村 一貴 ＜平成31年4月＞ 博士(リハビリテーション療法学)
		健康科学 I 体力科学演習 体力科学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	鈴木 浩司 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		生物学
兼担	准教授	小林 一也 ＜平成31年4月＞ 工学博士
		情報科学 情報科学演習
兼担	講師	林 智 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼担	准教授	山崎 大介 ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼担	准教授	小柳 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		看護ケアと工学※
兼担	准教授	小山 靖人 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		看護ケアと工学※
兼担	准教授	岩本 健嗣 ＜令和2年4月＞ 博士(政策・メディア)
		生活支援と情報※
兼担	准教授	伊東 聡 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		先端医療論※
兼担	講師	濱 貴子 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		社会学 環境論※ コミュニケーションの社会学 富山と日本海※
兼担	講師	中村 秀規 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		環境論※
兼担	講師	井戸 啓介 ＜平成31年4月＞ 博士(人間・環境学)
		心理学 I 心理学 II
兼担	講師	上村 一貴 ＜平成31年4月＞ 博士(リハビリテーション療法学)
		健康科学 I 体力科学演習 体力科学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	鈴木 浩司 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		生物学
兼担	教授	小林 一也 ＜平成31年4月＞ 工学博士
		情報科学 情報科学演習
兼担	准教授	山崎 大介 ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼担	教授	小柳 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		看護ケアと工学※
兼担	教授	小山 靖人 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		看護ケアと工学※
兼担	准教授	岩本 健嗣 ＜令和2年4月＞ 博士(政策・メディア)
		生活支援と情報※
兼担	准教授	伊東 聡 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		先端医療論※
兼担	講師	濱 貴子 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		社会学 環境論※ コミュニケーションの社会学 富山と日本海※
兼担	准教授	中村 秀規 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		環境論※
兼担	講師	井戸 啓介 ＜平成31年4月＞ 博士(人間・環境学)
		心理学 I 心理学 II
兼担	講師	上村 一貴 ＜平成31年4月＞ 博士(リハビリテーション療法学)
		健康科学 I 体力科学演習 体力科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	佐保 賢志 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	寺島 修 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	森重 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(情報工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	浦島 智 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	准教授	手計 太一 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	環境論※
兼任	講師	千葉 元 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	富山と日本海
兼任	講師	申 英蘭 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)	文学 I 中国語 I
兼任	講師	林 夏生 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	国際関係論
兼任	講師	宮島 光志 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	倫理学 哲学
兼任	講師	高越 英 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4 英語 5 英語 6

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	高橋 裕美 ＜平成31年4月＞ 博士(医学)	健康科学 I 体力科学 体力科学演習
兼任	講師	佐保 賢志 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	寺島 修 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	森重 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(情報工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	浦島 智 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	准教授	手計 太一 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	環境論※
兼任	講師	申 英蘭 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)	文学 I 中国語 I
兼任	講師	林 夏生 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	国際関係論
兼任	講師	宮島 光志 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	倫理学 哲学
兼任	講師	山本 博 ＜平成31年4月＞ 博士(獣医学)	健康科学 II
兼任	講師	高越 英 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4 英語 5 英語 6
兼任	講師	望月 健一 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語 2 英語 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	高橋 裕美 ＜平成31年4月＞ 博士(医学)	健康科学 I 体力科学
兼任	講師	佐保 賢志 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	寺島 修 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	森重 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(情報工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	浦島 智 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	准教授	手計 太一 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	環境論※
兼任	講師	申 英蘭 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)	文学 I
兼任	講師	林 夏生 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	国際関係論
兼任	講師	宮島 光志 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	倫理学 哲学
兼任	講師	山本 博 ＜平成31年4月＞ 博士(獣医学)	健康科学 II
兼任	講師	高越 英 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼任	講師	望月 健一 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語 2 英語 4
兼任	講師	Szolnoky Notbert ＜令和2年4月＞ 学士(商学)	英語 2 英語 4 英語 5 英語 6
兼任	講師	寺崎 麗紅 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)	中国語 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	高橋 裕美 ＜平成31年4月＞ 博士(医学)	健康科学 I 体力科学
兼任	講師	佐保 賢志 ＜令和2年4月＞ 博士(情報学)	看護ケアと工学※
兼任	准教授	寺島 修 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	森重 健一 ＜令和2年4月＞ 博士(情報工学)	看護ケアと工学※
兼任	講師	浦島 智 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)	看護ケアと工学※ 生活支援と情報※
兼任	講師	手計 太一 ＜令和3年4月＞ 博士(工学)	環境論※
兼任	講師	申 英蘭 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)	文学 I
兼任	講師	林 夏生 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	国際関係論
兼任	講師	宮島 光志 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	倫理学 哲学
兼任	講師	山本 博 ＜平成31年4月＞ 博士(獣医学)	健康科学 II
兼任	講師	高越 英 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語 1 英語 2 英語 3 英語 4
兼任	講師	望月 健一 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語 2 英語 4
兼任	講師	Szolnoky Notbert ＜令和2年4月＞ 学士(商学)	英語 2 英語 4 英語 5 英語 6
兼任	講師	寺崎 麗紅 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)	中国語 I











専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等		
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名		
兼任	講師	畑 真夕美 <令和3年4月> 学士(看護学)(教養)	兼任	講師	畑 真夕美 <平成31年4月> 学士(看護学)(教養)	兼任	講師	畑 真夕美 <平成31年4月> 学士(看護学)(教養)	兼任	講師	畑 真夕美 <平成31年4月> 学士(看護学)(教養)		
		看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※		
兼任	講師	向井 紀子 <令和3年4月> 専門学校卒	兼任	講師	向井 紀子 <平成31年4月> 専門学校卒	兼任	講師	向井 紀子 <平成31年4月> 専門学校卒	兼任	講師	向井 紀子 <平成31年4月> 専門学校卒		
		看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※			看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※		
											兼任	講師	林 紗美 <令和3年4月> 学士(看護学)
													看護ケアとユマニチュードⅠ※ 看護ケアとユマニチュードⅡ※ 看護ケアとユマニチュードⅢ※ 看護ケアとユマニチュードⅣ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・認可時の附帯事項であった15授業科目の専任教員の配置について、平成31年4月寺井講師就任。(平成30年12月AC教員審査済)
- ・「芸術学」の兼任教員の退職により、「比較文化学」を新設し、担当兼任教員として金城准教授就任。
- ・「科学技術と社会」「環境論」について、兼任教員の退職により、兼任教員(非常勤講師)に変更。
- ・「海外語学研修科目」「物理学」「中国語Ⅱ」「英語1～4」「富山と日本海」等について、担当の兼任教員を変更。
- ・「形態機能学Ⅰ～Ⅲ」「看護ケアとユマニチュードⅠⅡ」について、兼任教員を追加。

【令和2年度】

- ・「体力科学演習」「英語5」「英語6」「中国語Ⅰ」について、担当の兼任教員(非常勤講師)を変更。
- ・「英語2」「英語4」について、兼任教員を追加。
- ・「感染と防御」「薬理学」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生学」について、兼任教員を追加。
- ・「成人臨床医学Ⅰ(外科系)」「成人臨床医学Ⅱ(内科系)」「小児臨床医学」「母性臨床医学」「精神臨床医学」「栄養学」について、兼任教員を変更及び追加。
- ・「先端医療論」について、兼任教員を変更。

【令和3年度】

- ・令和2年9月佐伯教授就任(令和2年8月AC教員審査済)
- ・令和3年4月清水講師、村上章助教、村上利矢子助教、枝川助教就任(令和3年2月AC教員審査済)
- ・「数学」について、兼任教員を変更。
- ・「先端医療論」「環境論」について、兼任教員の退職により、兼任教員(非常勤講師)に変更。
- ・「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」について、兼任教員を変更。
- ・「体力科学演習」「生活支援と情報」について、兼任教員を追加。
- ・「病理学」について、兼任教員を変更。
- ・「精神臨床医学」「保健医療福祉行政論」について、兼任教員を変更及び追加。
- ・「看護ケアとユマニチュードⅠ～Ⅳ」について、兼任教員を追加。
- ・専任教員の増加に伴う専任教員等の配置の変更(トピックゼミⅠ～Ⅳ、初期体験実習、老年看護方法論、老年看護学演習、老年看護学実習Ⅰ～Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学概論、地域看護方法論、地域看護学演習、地域看護学実習、看護学研究Ⅰ～Ⅱ、看護ケアとユマニチュードⅠ～Ⅳ)

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
13 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
7	9	17	15	48	3	8	9	19	17	53	3
(7)	(6)	(18)	(14)	(45)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
8	9	19	17	53	3	8	9	19	17	53	3
[ 1 ]	[ 0 ]	[ 2 ]	[ 2 ]	[ 5 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 2 ]	[ 2 ]	[ 5 ]	[ 0 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
講師以上65 助教以下60 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{53}{48} = \boxed{110.41} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{53} = \boxed{5.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{3} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	0	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	0	科目	自由	科目	自由	科目
	計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	講師	渋谷 昭子	R3.3	必修	地域ケアシステム論	①	R3.3.31付け一身上の都合により辞任(3)	
				必修	生活支援と情報	②		
				必修	トピックゼミⅠ	①		
				必修	トピックゼミⅡ	①		
				必修	トピックゼミⅢ	①		
				必修	トピックゼミⅣ	①		
				必修	初期体験実習	①		
				必修	地域看護方法論	①		
				必修	地域看護学演習	①		
				必修	地域看護学実習	①		
				必修	多職種連携論	①		
				必修	看護学研究Ⅰ	①		
				必修	看護学研究Ⅱ	①		
				必修	看護ケアとユマニチュードⅠ	①		
必修	看護ケアとユマニチュードⅡ	①						
必修	看護ケアとユマニチュードⅢ	①						
必修	看護ケアとユマニチュードⅣ	①						
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	17	科目	必修	17 科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目
		計	17	科目	計	17 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	17	科目	必修	17 科目	必修	0 科目
		選択	0	科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	17	科目	計	17 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{48} = 2.08 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
合計				後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0	科目	計	0	科目	計	0

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

渋谷講師が担当していた各科目のうち、「トピックゼミ」や「看護ケアとユマニチュード」など共同実施の科目については、佐伯和子氏(教授：令和元年8月教員審査済)や清水暢子氏(講師：令和2年2月教員審査済)など専任教員を補充し、共同で実施しているため、学生の履行等に支障はない。また、渋谷講師がオムニバス科目の一部を担っていた「生活支援と情報」については引き続き同氏が兼任教員として担当するため支障はなく、その他のオムニバス科目の一部については、後任に清水暢子氏を充てるため教員審査申請を行っている。学生に対しては、オリエンテーションやホームページ上の教務システムにおいて周知を行っている。(3)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>認 可 時 (平成30年)</p>	<p>「コミュニケーションの社会学」について、授業の内容から科目区分を「精神・身体」に区分することは理解できるものの、科目名称に社会学を冠する考え方が授業科目の概要には記載されておらず、また、科目名称に社会学を冠する際には、社会システムや社会構造に関する内容を踏まえた授業内容とする必要があると考えられるが、これらの内容も授業科目の概要には記載されていないことから、科目名称と授業内容の整合性が不明確なため、学生にわかりやすくする観点から、科目区分、科目名称、科目内容の整合を図り、必要に応じて適切に改めること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>本科目は、認識や感情などの人間の心理的な側面を他者とのコミュニケーションとの関係から考える授業であることから、「精神・身体」の科目に区分している。</p> <p>また、社会システムや社会構造は人々のコミュニケーションに影響を及ぼし、さらにそうした社会の力に影響を受けた人々のコミュニケーションによって人間の心理的な側面が形作られていくことを考える授業内容とするため、科目の名称に「社会学」を冠している。</p> <p>以上の科目名称と授業内容の整合性を学生にわかりやすく伝えるため、シラバスの項目「授業の目標」の欄に、本科目が社会システムや社会構造に関する内容であることを記載し、加えて第1回目のガイダンスにおいても平易な言葉で社会システムや社会構造が人と人とのコミュニケーションや人間の心に影響を及ぼすことを説明した。</p> <p>履行済</p>	
<p>認 可 時 (平成30年)</p>	<p>工学部との連携について、「看護ケアとユマニチュードI～IV」、「トピックゼミⅢ～Ⅳ」及び「看護学研究Ⅱ」を通じて連携するとあるが、具体的な連携状況や工学部教員のうち、誰が何を行うのかといった具体的な参画状況が不明確であるため、これらの連携が看護教育にどのように効果的に反映されるのかの観点も踏まえて明確にし、これらの科目の授業内容の概要やシラバスに工学部との連携内容について記述すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>○1年次開講科目である「看護ケアとユマニチュードI」の科目概要とシラバスに、次のように加筆した。</p> <p>【科目概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がユマニチュード技法を用いた実践（見る；アイコンタクト）をしている場面をビデオカメラに収録し、見る技の現状分析を工学部教員ら（情報工学科：唐山教授他）と共同で行う。その結果を学生にフィードバックし、技術の改善やケアの効果に役立てる。</li> </ul> <p>【シラバス】</p> <p>学生の到達目標7. ケアの実践状況の映像を見ながら、自分の技術（見る；アイコンタクト）を振り返り、ケアの改善に役立てることができる。</p> <p>授業計画第3回目と第7回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*見る：工学部教員によるビデオ撮影（カメラ付き眼鏡）に基づく自分の技術の振り返り。</li> </ul> <p>○2年次以降に開講する「看護ケアとユマニチュードII～IV」の科目概要には、次のことを追記した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護ケアとユマニチュードII」では、ビデオ映像を用いて「立つ」技術の現状分析を、「看護ケアとユマニチュードIII」では、「清潔」に関する技術の現状分析を行う。「看護ケアとユマニチュードIV」では、今まで実施してきたビデオ映像分析のまとめを情報工学科の唐山教授らと共同で行い、技術の要点を明らかにする。</li> </ul> <p>○「トピックゼミⅢ～Ⅳ」は2年次開講科目、「看護学研究Ⅱ」は4年次開講科目である。これらの科目概要には、次のことを追記した。</p> <p>2年次に開講している「安全と快適を支援する看護学・工学連携」の必修3科目を学修した学生が、安全・快適を支援するための研究課題に関心を持ち、その課題探究を目指す場合には、看護学の教員に加えて「看護学・工学連携科目」を担当した教員（知能ロボット工学科、情報工学科他）からも指導を受けることができる。</p> <p>履行済</p>	

認可時 (平成30年)	教員の補充を必要とされた15授業科目については、開設時まで確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項	15授業科目を担当する小児看護学の専任教員(講師(平成30年度AC教員審査済み))を新たに平成31年4月から配置した。	履行済
設置計画履行状況調査時 (令和元年)	該当なし			
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	該当なし			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <看護学部 看護学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
設置の趣旨等を記載した書類 VIII入学者選抜の概要 3 選抜方法	「大学入試センター試験」を「大学入学共通テスト」に変更。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 看護学部FD委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回：令和2年6月18日（木）（出席委員6名／全委員数6名）</li> <li>・ 第2回：令和3年2月26日（金）（出席委員5名／全委員数6名）</li> <li>・ 第3回：令和3年3月16日（火）（出席委員5名／全委員数6名）</li> </ul> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD研修会の計画、FD委員会規程の改正、FD研修会の評価アンケートの実施及び結果の報告</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学書院主催「カリキュラム編成準備セミナー」（オンライン）</li> <li>・ ユマニチュードに関するテキスト及びe-learning教材を用いた自己学習</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインセミナーの受講及びテキスト・e-learning教材を用いた自己学習とした</li> </ul> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「カリキュラム編成準備セミナー」（令和2年7月11日～令和3年3月31日：参加教員数46名/全教員数52名）</li> <li>・ ユマニチュード自己学習（学習結果報告者数45名/全教員数52名）</li> </ul> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>授業計画の立案及びユマニチュード集中講義での学生の指導に活用</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>実施（前期及び後期の授業後半時期）</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>学内掲示板での掲示</p>
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
学部学科開設後2年しか経過していないので、総括的評価をできる段階ではないが、令和元年度から令和3年度まで定員を満たす入学者を迎えており、講義・演習・実習については新型コロナウイルス感染症の影響により、実施方法を変更するなどの対応があったものの、設立の趣旨・目的に沿って進行している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期  
令和3年7月30日 公表

b 公表方法  
・大学ホームページ上に公開予定（令和3年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画  
(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)  
・平成28年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受審した。  
・令和5年までに評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [ (有) ・ 無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。